

第91回宇宙政策委員会 議事録

1. 日時：令和2年12月3日（木） 11：00－11：40

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、遠藤委員、折木委員、後藤委員、中須賀委員、松本委員、山崎委員

(2) 政府側

内閣府宇宙開発戦略推進事務局 松尾事務局長、岡村審議官、吉田参事官

(3) オブザーバー

宇宙航空研究開発機構（JAXA） 山川理事長

4. 議事

(1) 「宇宙基本計画工程表の改訂について」事務局より資料1に基づき説明を行い、改定案が了承された。委員からは以下の様な意見があった。

(以下、○委員からの意見●事務局からの回答等)

○中須賀委員：新しい基本計画ができて最初の改訂ですので、さっき吉田参事官がおっしゃったように、非常に大事なアメリカへのメッセージや世界に向けてのメッセージになるということで、しっかりやっていただいたということで、感謝を申し上げたいと思います。

私は基本政策部会の部会長で、そこでも随分議論をしてきました。基本政策部会が宇宙民生利用部会と宇宙産業・科学技術基盤部会を併せたということで、もともと多い2つの部会の業務を併せるのすごいことになっていますけれども、そこでもしっかり議論させていただきました。

私が常々思うのは、いろいろな施策は、誰がやるのか、ヘッドクオーターといいますか、プロジェクトマネジャーをしっかり決めないとなかなか動かない。しかもそれが継続的でないとそこに知見がたまっていかないということを常々思っていて、それが今回はちゃんと誰がやるかということも含めてある程度入ってきたことは一つの進歩ではないかと思います。あとは、そこをしっかりやっていただけるように、ある種のインセンティブなりチェック機構を入れて、きっちりと一個一個をこなしていくことが必要かと思います。特に災害対策は誰が宇宙のデータを使ってやっていくのか、その音頭取りを誰がやるのかという話とか、STMもデブリだけではなくて非常に広い分野にわたるので、これを誰が日本で情報を集めて海外と交渉していくのか、こうい

ったことをやはりしっかりとやっていかなければいけないと考えております。

もう一つは、最後の5. にあります衛星開発・実証プラットフォームはすごく大事だと思っております。さっきお話がありましたけれども、日本の衛星技術をいま一度世界と競争できるあるいはそれを超えるようなところにしていくということで、大事な施策であると考えております。既にコア会議等で検討がスタートしておりますので、とにかくこれはしっかりとやって実現していきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

○松井委員長代理：「3. 宇宙科学・探査による新たな知の創造」ですが、我々はアルテミス計画をいろいろと議論してきましたし、予算的にも新しい第一歩を踏み出しつつあるわけですよね。これがISSと同じように将来的に日本の宇宙開発の一つの柱になる可能性は高いわけとして、その方針、戦略を明確にしなければいけないということで、この月面活動に関する長期ビジョンを検討することと、その先行的技術開発が非常に重要になるだろうと。今年の予算を見てみるとどの程度踏み出すのかが分からないのですが、いずれにしても、我々はアメリカのアルテミス計画に振り回されるのではなくて我が国独自の戦略を持つ必要があるので、この部分をぜひこれから我々としても検討していきたいと思っているところです。

○折木委員：工程表に至るまで、また、各省庁等も含めて、大変な御苦労でまとめていただいたと思っております。内容的に、より工程表そのものが戦略的な側面になってきたのかなという感じがしております。それは、アメリカとの関係だけではなく、各省庁の問題とか、防衛と民生の関係とか、その辺のところが織り込まれていて、全てこの取りまとめのポイントの中でこういう点も含めて戦略的に考えていかなければいけないのだろうと思っています。

特に、その中で、安全保障、防衛と民生をこれからどうやってリンクしていくのか。これは、予算的な面もそうですし、事業的な面もどうリンクさせていくかというのは物すごく大事になってくると思っています。そういう意味合いで、やることはいっぱいあるのですが、安全保障部会もしくはこの委員会を含めて、この工程表のところをどうやってフォローアップをしていくかというのはこれから課題になると思っていまして、そういう面では、いつも私は機能保証ばかりを言って申し訳ないのですが、例えば、機能保証の部分で、各府省庁がそれぞれ機能保証の分野で努力し研究調査をやり具体化していくという、それぞれの分野でやっている部分があるのですが、それを国家的に見たときにどういうことを優先して取り組んでいかなければいけないのか、そういうことをこれからしっかりと議論して具体化して一歩ずつ進めていかなければいけないのだろうと、この取りまとめに感謝するとともに、そういうコメントを致します。

○後藤委員：今回の工程表については、1月に交代するわけですから、日米ともに政権が交代という意味で、大変重要な位置づけだと思います。

一方で言えば、新しい政権に対して、特に日本になると思いますけれども、菅政権に対してこの新しい工程表の改訂版を、きちんとアピールというか、内容をきちんと理解していただく必要があると思うのですけれども、この辺のところは、今後、宇宙政策委員会として具体的にどういう活動を検討されているのか、あるいは、どういうことが必要なのか、現段階で分かっていることがあれば教えていただきたいと思います。

●松尾局長：今、工程表を御説明申し上げましたけれども、先ほど吉田参事官からも申し上げましたように、大きく考えますと、特に現在の状況下で、安全保障、アルテミスに代表されますような宇宙活動の拡大について、日米で協力して取り組んでいくのだと、しかもそれに関わるルールづくりも一緒に主体的に進めていくのだと、今この瞬間の信頼できるパートナーとしての役割を果たすことと加えまして、科学探査あるいはプラットフォームに代表されますような今後も引き続き信頼され続けるようなパートナーであるために努力もしていくのだというメッセージをアメリカに伝えていくことが大事だと思っております。

併せて、今後につきましては、次の大きなイベントは総理が主宰されます本部でございますので、これからまだいろいろ調整がございますけれども、総理からどういう御発言をいただかずか、さらには、それも踏まえて、今後、私どもも含めて、いろいろな機会をつかまして、アメリカ側にも今申し上げたような趣旨をアピールしていくと考えております。

○青木委員：この工程表は、進化していく文書という意味で、非常にバランスの取れたよいものだと思います。全てがお互いに有機的につながっています。宇宙が富と安全保障の場であること、豊かさと強さの両方を、日米など民主主義諸国がつくり上げることに成功すると、現在の価値の戦いに勝ち抜くことができ、世界を豊かで自由な民主主義のよりよい場所にしていくかと思いますので、この工程表の実践がとても大事だと思います。

○山崎委員：宇宙基本計画改訂の際にも議論されてきた大事なポイントがこの改訂にもおいても盛り込まれていると思います。

具体的には、やはり国際秩序を日本が先導していく。青木先生もおっしゃってくださったように、自由民主主義の結束が大切だと。その表れの一つとしてアルテミス計画もあるでしょうし、また、宇宙交通管制なども含まれると思っております。

また、もう一点としましては、特にこのコロナ禍におきまして、宇宙が宇宙だけではなく日本の社会全体に貢献していく意図ということで、災害に対するワンストップは行われていますが、それを実際に社会実装まで持っていく、あるいは、リモートセンシングの利用原則を立てる、それから、月面長期ビジョンもそうですけれども、様々な分野と連携していくという強い意図が表れている改訂ポイントだと思っております。

1点、コメントを申し上げるとすれば、5. の1ポツ目ですけれども、「衛星開発

を巡る国際競争が激化する中」とあります。ここにぜひ「衛星開発等」と「等」も入れていただければと思うのです。具体的には、H3、基幹ロケットが開発の佳境に入っていますけれども、輸送の分野でも非常に競争が激化しております。技術的にもコスト的にもかなり厳しい状況と言わざるを得ないと思っています。その中で、日本として将来的に戦略の一丁目一番地である輸送をどう維持していくか、まさに議論が行われていますけれども、そことユーザーである衛星開発の戦略は一体である必要がありまして、この衛星戦略を考えるときにはぜひそうした輸送と一体となっていかないといけないと思っています。連携を取るという意味でも、競争が激化しているのはいろいろな意味でという意味も込めて「等」と入れられたらと思います。

○松本委員：全体を拝見しますと、非常にバランスのいい御提案になったかと思います。事務局は大変だったと思いますが、よくできていると思います。

松井委員長代理と同じで、日米は協力しないといけないと分かってはいるのですが、あまり振り回されないで独自路線をという御発言がありました。私も強くそれを思っております。これはISSのときに若干経験いたしましたし、協力はするのだけれども振り回されないというのはぜひ政府に対してしっかりこの委員会から言ってほしいと思っております。なかなか難しいのですけれども、独自路線をやる場合に、日米がもちろん基軸になりますが、ほかの国もやっていましたし、日本の技術をいろいろ狙っているところもありますので、国際関係の中で日本が独自の路線を持つことは大変重要なと思いますので、その点をよろしくお願ひいたします。

○遠藤委員：皆様のおっしゃるように、極めて戦略的な工程表になっていると思っております。これは今回の予算の要求の拡大を継続的に行っていく上でも非常に重要な工程表になっておりますので、ある種、政治と社会とで納得性があるような重要なものにしていく、これを具現化していく必要性があると思います。

安全保障部会に出ておりまして、宇宙は戦闘の場に変革したということと、科学技術の最先端の競争の場であること、「宇宙抑止」という言葉も出てまいりました。双方の政権が替わった後も、そういう安全保障上の認識を、前文とか、そういうところできっちりと打ち出していくことが、政治・社会の認知につながっていくと思いますので、その辺りの定義も再度確認しながら、具現化の大前提としていただきたいと思っております。

●吉田参事官：御意見をありがとうございました。

様々にいただきましたけれども、最初に、中須賀先生から、誰がやるのかということが非常に重要だと、部会での議論でもそこはあったと思います。例えばということで先生からも例を挙げていただきましたけれども、災害対策やSTMのところをしっかりと体制を整えて進めていきたいと考えております。また、プラットフォームにつきましても、ほかの委員の方からも少し関連するお話がございましたけれども、今、しっかりと準備を進めておるところです。年度内にということで今回は書き込みましたけ

れども、そこはしっかりやっていきたいと思います。

松井先生から、アルテミス計画、ビジョン関連について御指摘をいただきました。我が国としてどういう戦略を持つのかというところが極めて重要になってくるというところはほかの方々からも御指摘をいただいております。今回の工程表にもしっかり書き込んだところでございまして、これから具体化を進めてまいりたいと思います。

また、折木委員から、全体で国家的にどこを優先してという話を具体的に機能保証の例で御指摘いただきましたけれども、こここそ、事務局としてもそうですし、委員会としてもしっかりと見ていただくところだと思っております。今後、しっかり意識して進めていきたいと思います。

後藤委員の御指摘は、先ほど局長からお答えいたしましたけれども、ここについてもしっかりとメッセージを発信していくように頑張っていきたいと思います。

山崎委員から、5番の最近の情勢、1つ目のポツの「国際競争が激化する中」というところに、今は「衛星開発」だけがありましたけれども、ほかの関連も様々にございまして、具体的にロケットの話も挙げていただきました。我々としての認識はまさにそのとおりでございますので、ここは修正させていただきたいと考えております。

●松尾局長：まず、今、特にアルテミスについてお話をございました。長期ビジョンを持って、振り回されないで日本独自のというところは、私どもも、しっかりとこれから詰めていきたい、しっかりと委員の御指導をいただきながら考えていきたいと思っております。

先ほど松井委員長代理からも御指摘がございましたけれども、予算は大きく記載させていただきました。正直、なかなかこれは苦戦をいたしておりますが、何とか必要な予算は確保できるように最後まで頑張りたいと思っております。その中で、しっかりとまさに長期のビジョンに向けて、必要なことはしっかりとやっていくようにということを最後まで努力してまいります。本当に苦戦をいたしておりますけれども、こんな各省の前で申し上げるのはよくなかったかもしれません、何とか頑張りたいと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。これは議事録からは削除していただければ。

ただ、その中でも必要なことはしっかりできるように予算は確保したいと思っておりますし、何とか確保できるようにと思っております。

以上